

令和7年度 発達支援研修通信 ～第1号～

発行者：和光市保育センター

令和7年10月10日 発行

講師：一般社団法人
プライムシャイン

代表理事 井上綾乃 先生



今年度も一般社団法人プライムシャイン代表 井上先生をお招きして、子どもたちの特性や行動に対する理解、保護者支援など、各回ごとにテーマを設けて、発達支援の基礎的な知識・スキルを学んでいます。

明日から保育の現場ですぐに実践できる内容となっており、グループワークや体験を通して他園の先生方と共感し合い、楽しく交流しながら知識を深めていきます。

今回は、第1回目と第2回目の研修の内容を、集約してご紹介します。



第1回目 [7月22日(火)]

「こだわり」「落ち着きがない」発達特性を学び、支援に繋げる

発達支援で大切にしたいこと

自分の脳で考えず相手の脳で考える

お散歩に行くのを渋っている子がいる…
・連れていくことが正解なのかな(当たり前)
・本当に連れていく必要があるのかな?(疑う)
⇒自分の当たり前を疑うことから始めよう!

大人は、相手の脳の仕組みを理解すれば、相手に合わせることができる ⇒ 相手(子ども)の脳で考えてみよう!



発達支援において、とても大事なことなんだね。

前庭感覚と固有受容覚

前庭感覚

揺れる、スピードを感じる、回転などバランスを感じる感覚

この感覚に偏りがあると、このような姿が見られます

鈍感

・部屋の中を走り回る
・ブランコにずっと乗っている

敏感

・揺れること、高いところが苦手
・ゴロゴロ横になって遊ぶのが好き

固有受容覚

筋肉の収縮、力加減など、筋肉や関節に感じる感覚

鈍感

・力の調整や加減が難しく、床の上を足でドンドン鳴らして歩く

敏感

・体を動かすことが少なく、じっとしていることが多い

グループワーク ・ 体験



背中合わせに立った状態で、手元を見ずに筋肉を収縮させたり、伸ばしたり、見えないところをイメージしながら、ボールペンを順番に回す体験をしました。



体験を通して、考え方や価値観、感覚の感じ方はみんな違うんだ!ということを改めて感じました。





第2回目 【8月26日(火)】

集団と個の両者を大切にするインクルーシブ保育とインテグレーション保育

インクルーシブ : 包括

障がいの有無に関わらず、同じ活動を行う。
その中で、配慮が必要な場合には支援が当たり前
に保障される。

インテグレーション : 統合

障がいがある子もない子もひとり一人に合わせた
保育が行われる。その子に合わせた環境で、その子
に必要な活動を行う。

グループワーク

インクルーシブの視点で支援の方策を考えてみる

例えば…

椅子取りゲームへの参加
が難しい…

⇒その時間だけは別のクラ
スで過ごすなど、クラスだ
けでなく、園全体で考える。

散歩の帰り道で疲れて足が止まってしまう…

⇒行きは「公園に行く」という楽しい目的があ
るから頑張れるけど、帰りは見通しが持てなく
て歩けなくなってしまう。

音が鳴るカプセルを紐に通し体に掛け、振りな
がら音や感覚遊びを楽しんでいる間にスムー
ズに歩けるようになる。



運動会での支援

かけっこの場面で…

白線コースの間を走ることが難し
い場合は、コースの真ん中に線を
引いて、線の上を走る。

みんなと一緒にダンスをするのが難しい…

全員が同じ競技に参加するのではなく、ダ
ンス、親子競技(かくれんぼ)、むかで競争
などグループに分けて、それぞれが楽し
い!と思える競技に参加する。



みんな同じでなく
てもいいんだね!

感触支援グッズの 紹介



感触グッズ“水あめキューブ”
冷凍すると固くなり、手で溶かす
のも楽しい♪

“リアンのゴムひも”

触ったり引っ張ったりしながら、
感触を楽しむ。
タグに付けて身に付けておける。

吹き独楽



参加者の声♪

保育していく中で、日々、皆ちが
うことが当たり前を自分に言い
きかせながら保育をしていきた
いと思いました。

こだわり…こだわってオッケー!
(ハレルヤ保育園 I・Y 先生)

行事前は、いつも以上に集団を
意識してしまうのですが、得意な
こと、苦手なこと一人ひとり違っ
て良いということが改めて研修
を通して感じました。直近の行事
で運動会があるので、学んだこ
とを活かしていきたいです。

(N・N 先生)

他園での気になる子に対しての
支援方法について、たくさんの
学びがありました。

スモールステップで行って行け
るように、まずはその子に合っ
た保育、その子の好きなものを
活用していき、支援していきたい
と思いました。

(さいたま保育園 T・A 先生)